

災害に備える

いつか起こる災害。「いつか」は突然やってくる。

明日、地震が起こったら、何を持ってどの道を通ってどこに避難しますか。家族の安否はどう確認しますか。最悪の事態が起こる前に準備しましょう。

東日本大震災

誰も想像しなかった明日がやってきました。3月11日、午後2時46分、三陸沖を震源にM(マグニチュード)9.0、最大震度7の巨大地震が発生。大津波が、人や建物、町全体を飲み込み、多くの尊い命が奪われました。

「私たちにできること」として、市民の方々からも、救援物資や義援金など、多くのご支援をいただき、本当にありがとうございました。

市からも、消防職員8人、一般職員12人が、岩手県釜石市、宮城県仙台市、同県山元町へ派遣されました。緊急援助隊、給水業務、り災証明業務、保健支援、課税業務

など、それぞれ約10日間派遣されました。現在も被災地への派遣は続けられています。

伊予市でも、いつ、このような大災害が起こるかわかりません。

伊予市ではどのような災害が起こるのか、命を守るために今すべきことは何なのか、みんなで助けあうにはどのように動いたらいいのか、災害についてよく知り、備えましょう。

南海地震は30年以内に約60%の確率で発生する

愛媛県で想定される災害の一つに、南海地震があります。

四国の南海域を震源とする南海地震は、100〜150年の周期で繰り返し

そのとき、
どうする？

地震発生 激しい揺れは約1分

頭を保護して机の下へ。揺れが収まったら火を消す。ドアや窓を開けておく。

家族の安全確認

下敷きになっていないか確認する。ガスの元栓を締める。靴を履いて避難。

隣近所の安全確認

けが人や行方不明者がいないか確認する。火災時には初期消火を行う。

5分 正確な情報収集

ラジオ等で正確な情報を知る。安否確認は災害用伝言ダイヤル(171)を利用。

10分 避難後は助け合いの心

消火・救出・救護活動を協力して行い、水・食料を確保する。倒壊する危険のある建物には入らない。災害情報・被害情報の収集。

明日かも

しれない

被災地で救助活動

消防職員 宮岡政司さん



職員たちは皆「すぐにでも行きたい」という気持ちでした。しかし日常業務もあり、全員で行くことはできません。私も含め伊予消防等事務組合から8人が、愛媛県隊として、3月14〜21日の間、岩手県釜石市に派遣されました。17・18日の2日間、がれきの撤去や中に埋もれた人の捜索、避難所で体調を崩された方の救護などを行いました。

余震に不安を感じながらも、「ご苦労様です」「ありがとうございます」と声をかけてくださる被災者の方々に、逆に力を頂きました。もっと助けたい、まだまだできることがあるんじゃないかという思いでした。

愛媛は災害が少なく、防災意識が低い地域です。震災は忘れたころにやってきます。「まだ来やへんわい」と思わずに、今日の夜、明日かもしれないと思って、避難場所・避難経路の確認、非常持ち出し袋や応急手当用品、保存食などを用意して、災害に備えてください。

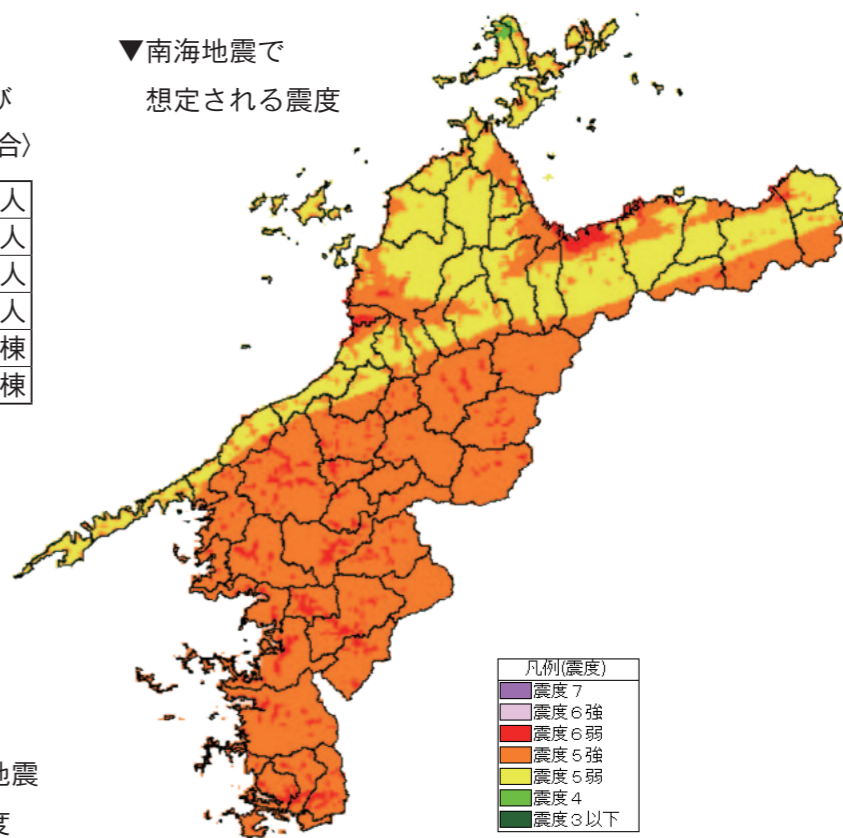
し起こっている地震です。

国の地震調査委員会は、南海地震は、今後30年以内に約60%、50年以内に90%の確率で発生すると予測しています。その規模はM8.4と推定され、平成13年の芸予地震(M6.7、中予では震度5強を観測)よりも大規模な地震になります。

死者は約1000人、負傷者は約13000人、約1万人が避難所へ避難すると予測されています。同調査で活断層や地震履歴から想定された、5つの地震のうち3つの地震で、伊予市は最大震度6強の揺れが予測されています。

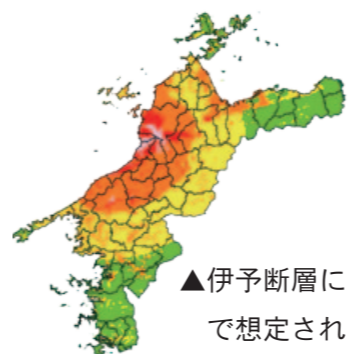
また、地震には、南海地震のようにプレートが原因で周期的に起こる地震以外に、阪神淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震のように活断層が原因で起こる直下型地震があります。伊予断層が活動して発生する地震(M7.1)や伊予灘沖海底活断層が活動して発生する地震(M7.8)では、伊予市で最大震度6強の揺れが予測されています。

▼南海地震で想定される震度



《愛媛県の地震被害想定調査》南海地震発生時の人的被害および建物被害棟数(発生時刻2時の場合)

死傷者	死者	94人
	負傷者	1,315人
避難所人数	1日後	10,033人
	1カ月後	6,886人
建物被害	全壊	2,685棟
	半壊	7,633棟



▲伊予断層による地震で想定される震度

新しい農業委員会委員

37人が決定しました

担当地区・氏名・役職は次のとおりです。(敬称略)

■任期 平成23年7月20日～平成26年7月19日

■問い合わせ 農業委員会(内線577)

担当地区	氏名	役職
本庁地区		
鶴崎、両澤、上唐川、下唐川	竹岡 春雪	
大平(上、下、平岡)	金子 輝雄	
三秋	大田 幸子	
森	藤岡 政晴	会長
本郡	刃田 仁	
尾崎、三島	西田 武	
市場、中村	鷹本 昌夫	
稲荷	久保 直一	
上吾川	徳田 俊正	
米湊	竹中 秀一	
下吾川(沖庄、馬塚、本村、池田)	早田 鈴香	
下吾川(馬塚、新川)	日野 晴美	
下三谷(原、栗林)	山下 將文	
下三谷(近江、仲組、北組、町永)	日野 遼一	
上三谷(客、原、大替地)	小笠原通夫	
上三谷(旗屋、平松)	藤本 利男	幹事
上野	坪内 寛	
宮下	池内 正一	
八倉	重松 良一	
中山地区		
上長沢、下長沢、泉町1・2、福元、高岡	中屋敷忠雄	
泉町3・4、柚之木、平村、添賀	池田 光宏	
重藤、永木、福住、梅原	福岡 好夫	
豊岡1・2、東町、門前、坪井、小池	駄場 時寛	
大矢、野中、影之浦、栗田2・3	駄場 武志	
栃谷、日南登	椽木 隆博	
漆、福岡、平沢	磯岡 幹雄	
榎峠、竹之内、日浦、影浦、障子ヶ谷、坪之内	船田 眞一	
村中、山口、中替地、柿谷	中岡 進	
安別当、梅之木、源氏、赤海	泉 正勝	会長代理
犬寄	松浦 道子	
双海地区		
高野川、小網、城ノ下、灘町、両谷	岡田 義数	
東峰、高見、犬寄、大栄、奥大栄	松永 盛行	
粒野	松田 満里	
久保、三島、岡、日尾野	椋井 幸男	
唐崎、塩屋、本郷	木内 進	幹事
本谷、石久保、関住、富岡、日喰、上浜、下浜、奥西、奥東	梶野 将照	
池ノ久保、本村、松尾、富貴、満野空、満野浜、壺神	二宮 重徳	

特集 災害に備える

今何をすべきか

災害が起こる前にしなければならぬことがあります。防災対策の基本は、

- 一に「自助」(自分を助ける)
- 二に「共助」(みんなで助けあう)
- 三に「公助」(公的機関が助ける)です。いざという時、自分の命や家族の命を守る準備をしておきましょう。

2 防災グッズ



非常時にすぐ持ち出せるよう、リュックにまとめましょう。

【非常持ち出し品】

- ① 飲料水(最低3日分)
- ② 非常食(最低3日分)
- ③ 懐中電灯・携帯ラジオ
- ④ 救急医薬品
- ⑤ ヘルメット・防災ずきん
- ⑥ その他(現金、ライター、身分証明書のコピー、軍手、衣類、ティッシュペーパー、タオルなど)

1 家庭で防災会議

災害時、自分や家族がどこにいてどうやって避難するのか、具体的に話し合いましょ。

【確認すべきこと】

- ① どんな災害が起こるか
- ② 災害時に身を守る方法
- ③ 非常持ち出し品の場所
- ④ 避難場所
- ⑤ 避難経路
- ⑥ 連絡を取り合う方法

3 地域で守る 自主防災組織

災害時、自分一人の力では動かせないがれきや家具をのけてくれるのは、隣近所や地域の人です。地域で協力できるよう、日頃から地域の自主防災活動に積極的に参加しましょう。

4 いよし安全・安心メール

災害時に正しい情報を得るため、また日頃の防犯のために、市や警察署などが配信する「いよし安全・安心メール」に登録しましょう。



【登録方法】

- ① entry-iyo@bousai-mail.jp にメールする。
- ※ 題名や本文は不要。
- ※ 下記のQRコードも利用できます。
- ② 返信メールが来たら、記載されているURLにアクセス。
- ※ iyo@bousai-mail.jp のメールを受信できるようにしてください。
- ③ 利用規約を確認し、伊予・中山・双海などの居住地を設定する。



5 防災行政無線

④ 登録完了。地域や情報の詳細を設定することもできます。

「こちらは防災伊予市…」で始まる防災行政無線の内容は、電話で確認できます。放送が聞きづらかったり、内容を確認したいときは、次の番号に電話してください。

☎94617977

6 防災のしおり



防災マップや災害時の対応について書かれた「防災のしおり」は、防災安全課、または各地域事務所から入手できるほか、市ホームページからもご覧いただけます。

問い合わせ

防災安全課(内線564)

interview



重要なのは「地域でのコミュニケーション」

米湊A-2区自主防災会長 北本二朗さん

毎年6月には、防災器具の点検を行うようにしています。今年も避難訓練と災害図上訓練も行い、米湊A-2地区の住民60人が参加しました。災害図上訓練では、ゲーム感覚でコミュニケーションをとりながら防災マップを作りました。地図を広げ、自分の家に印をつけてもらいました。海抜何mのところにあるのか、避難所はどこか、どの道を通るのか、崩れそうなどころはないか、高齢者や障害者がいる家はどこかなど具体的に確認しました。

お昼には炊き出しと非常食の試食を行いました。東日本大震災の後だったため、非常食や水を人数分用意することはできませんでしたが、実際に災害になった時を想定して、地区の皆さんの畑にある野菜などを使って料理していただきました。訓練を通して、コミュニケーションをとりあい、地域のつながりを深めることが重要だと感じました。人を知る、町を知る、災害を知るといって、3つの知識を得ることができました。参加した方々にも「地域のことをよくわかった。またやってほしい。」と言われました。

避難訓練や災害への対策は、何度もしていくことで早く対応できるようになります。いざという時に動けるように、ぜひ多くの人に参加していただいで、地域でのコミュニケーションをとってほしいです。

